

難民支援の現状を知る

～私たちができる支援を考える～



当日のプログラム
13:30～ 開会挨拶
13:35～ 講演
14:35～ 休憩
14:40～ 質疑応答
14:50～ グループ交流・報告
15:20～ 講師より受け止め
15:25～ 閉会挨拶

日時:2022年12月1日(木)13:30～15:30

開催方法:ハイブリッド開催

参加者: 37名(会場11名・オンライン26名)

主催:23区消費者団体活動情報交流会実行委員会/新宿区消費者団体連絡会

協賛:東京都消費者月間協賛事業



司会:海老澤恵子さん 中野区消費者団体連絡会

開会挨拶 釜井英法さん TOKYO 消費者行政充実ねっと

2014年から始まった23区交流会も今回で9回目となりました。今年度は消費者の視点で、今ある社会の問題からテーマを話しあい、ロシアによるウクライナ軍事侵攻をきっかけとした「難民支援の現状を知る～私たちができる支援を考える～」としました。長年、難民支援協会でも活動されている石川さんのお話を聞き、グループで話し合い交流することで、充実した時間になればと思っています。



ウクライナ及び世界における難民の状況について ～日本における難民のおかれている現状など～

石川えりさん 認定 NPO 法人 難民支援協会 代表理事



難民とは/世界の難民の状況

難民とは迫害を受けるおそれのために、怖くて故郷に帰れず国外に逃れてきている人です。逃れる理由としては、戦争や紛争、民主化運動へ参加した人、改宗した人、性的マイノリティである人、反政府活動をしているグループと同じ地域に住んでいるとみなされる人などで、2022年5月現在、避難を余儀なくされる人は全世界で1億人を超えています。

難民条約(難民を守ることを世界に向けて約束)は多くの国で締結されていますが、難民を受け入れることで、難民は受入国の重荷になるのではないか?という声を聞くことがあります。西欧諸国では「難民への財政支援は成長と税収入で相殺できる」と結論付ける研究も多くあります。また、単に受け入れるだけでなく、充実した語学教育・職業訓練など難民への適切な支援が必要です。もっとも、経済的利益のために難民を受け入れるのではなく、あくまでも人道・人権に基づいて受け入れることが必要です。

日本における難民の状況

日本は難民認定される方が少ない一方で、多くの難民申請者がいます。2021年の難民認定は74人と過去最高でしたが、認定率は0.7%で世界的にもとても低いです。受入れの対応にも出身国ごとに差があり、難民申請者の生活を支援する保護費では、ウクライナ避難民(身元引受のない者)への支援との差が大きく、国籍に限らない日本へ逃れた方への包括的な支援の実施にどうつなげるかが大切です。日本にいる難民の方々は、生活の困窮や住居確保の難しさ、就労へのハードル、医療アクセスの難しさ、収容のおそれなど、多くの困難と直面しています。

難民問題とは、難民の人たちが問題なのではなく、難民を受け入れられない側の問題としてとらえるべきではないでしょうか。

難民支援協会の活動

「難民の尊厳と安心が守られ、ともに暮らせる社会へ」をビジョンに掲げ活動しています。支援として、法的支援・生活支援・就労支援・コミュニティ支援・政策提言・広報活動などを行っています。生活支援でお渡ししている食料の中には、協力団体から提供していただいた野菜やパンもあります。又、昨年、入管法改正案の問題点を分かりやすく伝える「#難民の送還ではなく保護を」Twitter キャンペーンを企業とともに展開しました。難民の方々の尊厳と安心が守られ、ともに暮らせる社会へ向けて、より多くの方々と連携しながら、これからも活動を進めていきたいと思っています。



閉会挨拶 宮崎冴子さん 新宿区消費者団体連絡会

所属する(一社)新宿ユネスコ協会は、今年度直ぐに(公社)日本ユネスコ協会連盟を通じてウクライナへの募金をしました。全国のユ協で集めたので8千万円以上集まりました。いろいろな支援が緊急で重要になっていますが、「自立」を支援する仕組みをつくる必要があります。経済的・精神的・社会的自立のために、皆で考えて行動につなげていきたいと思っています。本日は、有意義な講座となりましたことに感謝申し上げます。

アンケートより(一部抜粋)

- ・生協が食材の寄付をしているのはとても良いと思う。難民支援協会への寄付を組合員に呼び掛けていくことができたらよいと思う。
- ・今回のウクライナ避難民の受け入れを通して、日本の難民政策の変化に結びつけるようにしていくべきだと思っています。
- ・わかりやすい講演でした。事実と現状をきちんと知ることが始まりと改めて感じました。
- ・難民を受け入れることによって国が豊かになるという報告は「難民」のイメージが変わりました。
- ・日本は難民の受け入れや支援が他国と比べて少ないが、もっとみんなが難民について知ることがまず大事だと思う。
- ・まず知ること、身近に感じる自分ができると感じました。